

序

国際リハビリテーションの魅力は、自分たちセラピストが身につけている知識や技術が、国・社会・文化・言葉の違いを越えてもなお有効であることを知る喜びにある。



本邦初の、あるいはもしかすると世界初の「国際リハビリテーション学」の教科書をここにお届けする。

わが国のPT・OTそしてSTによる国境を越えた活動は、1970年代にはじまった青年海外協力隊での派遣を中心に、以前から存在した。ただ、それは個人的活動の範囲を越えるものではなく、1つの専門分野として体系的に知見を蓄積する環境は未整備であった。本書は、その個人的活動から得られた知見と必要な知識を集約し、「国際リハビリテーション学」という分野の確立をめざした最初の試みである。本書を1つの場として、国境を越えた活動経験のあるセラピストたちが新たな知見をもち寄り、内容を議論し更新することを期待している。

国際リハビリテーションは、リハビリテーションという大分野の発展に必要な「専門性の深化」と「専門知識・技術の普及」のうち、特に「普及」を担うと考えられる。本書もリハビリテーションが未整備な国や地域でいかにその普及を実現するかを中心に書かれている。普及には相手がいるため、その方法は千差万別で一般化しにくいだが、それでも最低限知っておくべき方法論はある。それに加え、先人たちの創意工夫の具体例をできるだけ数多く掲載することで、この分野の入門書の決定版をめざした。なお、今回は「セラピスト養成課程も含むリハビリテーション供給体

制のつくり方」に触れていないが、その課題は将来のよりアドバンスな書籍の刊行にゆだねたい。

本書は次のように構成されている。第1章は**国際リハビリテーションの基本情報**を整理し掲載した。学生や初学者は1章よりこの分野の概要をつかんでほしい。第2章は本書の肝であり、国際リハビリテーションの**実施マニュアル**である。この分野に必要な技術や知識を学べるだけでなく、はじめて国際リハビリテーションに従事するセラピストが**そのまま現地で実践できる**内容になっている。第3章は**関連領域をコンパクトに紹介**しており、この分野の多角的理解に役立つ。第4章は**国際リハビリテーションプロジェクト立案のワークブック**である。養成校での演習やグループワークに、または、セラピストが現地でプロジェクトを立案する際に活用してほしい。第5章は**セラピストたちの体験報告集**であり、体験者の生き活きとして多様な声に満ちている。それぞれの体験から得られた教訓も示されており、活動の際の参考になるはずだ。初学者は5章から読みはじめてもらってもよい。

現在の国際リハビリテーションは多くの先人たちの営為を礎として成り立っている。特に、理学療法士である田口順子先生は青年海外協力隊技術顧問の立場などを通して、数多くのセラピストをこの分野へと誘い、励まし、結びつけてこられた。この場を借りてこれまでのご尽力に尊敬と感謝の念を表する。羊土社編集部の皆さんには、われわれ執筆者に劣らぬ情熱をもって本書の刊行に取り組んでいただいた。心から感謝している。最後に、途上国で出会った対象者や同僚の皆さんに、現地活動や写真掲載にご協力いただいたことを深く御礼申し上げる。本書を通した国際リハビリテーションへの貢献が少しでも皆さんへの恩返しになればと願っている。

2016年3月

執筆者を代表して
河野 眞